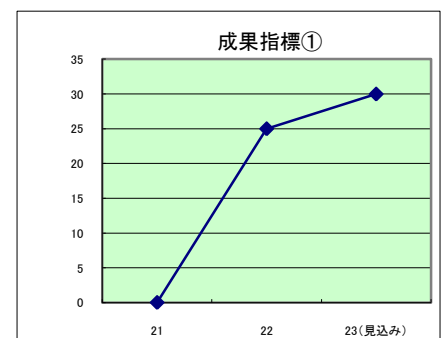
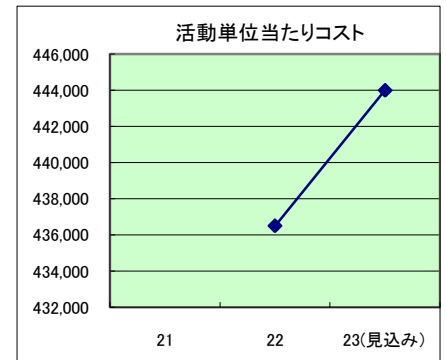


事務事業名	タチバナ頒布事業		会計	1	一般会計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち	款	8	土木費
	施策(節)	10	公園・緑地・緑化	項	4	都市計画費
	施策の方向	(1)	緑地の保全と緑化の推進	目	3	公園費
				事業	1	緑化推進
関連する計画等			作成部署	土木部みどり公園課		
事業の目的	対象(誰を・何を)		連絡先	072-958-1111 内線 2420		
事業の内容	市民					
	意図(どういう状態にしたいのか)					
	市の木「タチバナ」を頒布し周知普及させる。					
		市場では流通しておらず入手困難なため、苗木生産者に育苗を依頼し、2年生苗木を広報で募集のうえ市民に1本800円で10月と3月に頒布している。				
根拠法令等						
事業開始時期	☐ 昭和 6 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている		終了年度	平成 年度		
事業開始時からの状況変化	開始当初は年間100～150本頒布していたが、平成23年度は30本を予定している。最近は減少傾向である。					
市民や議会の要望						
実施手法	☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先	☐ 市外郭団体委託 名称()		委託内容			
	☐ 民間委託 ☐ その他					

区 分		21年度	22年度	23年度	
		(実績)	(実績)	(見込み)	
事業費【1】 (千円)		0	45	60	
人件費【2】 (千円)		525	828	828	
職員数	正規職員	0.07 人	0.11 人	0.11 人	
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	臨時職員	0.00 人	0.02 人	0.02 人	
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		525	873	888	
財源内訳	国費 (千円)				
	府費 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他 (手数料・使用料等) (千円)				
	一般財源 (千円)	525	873	888	
活動指標(事業の活動実績)【B】		単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① 頒布回数		回	0	2	2
②					
③					
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)			円 436,500 円	444,000 円	
市民1人当たりコスト(【A】／人口)			4 円	7 円	8 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成21年度		平成22年度		平成23年度
	①	頒布数（本）	本		目標	0	30	達成率(%)	30
		(式)			実績	0	25	83.3%	
	②				目標			達成率(%)	
		(式)			実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	市の木ではあるが市場性が低いため普及するためには市の関与が必要である。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	市の木として市民へ普及、啓発し続ける必要がある。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☐	☒	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☒	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	近年、頒布数が減少傾向にあり、市の木をPRするための、より効果的な手法を検討する必要がある。
		受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☐	☒	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	市の木として市民へ普及をはかり緑化推進を進める上で有効である。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	市の木を広く普及するため、広報などでPRしながら市民参加を得ている。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	頒布数が減少傾向であり、目標値を達成していない。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☒ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	平成20年度より頒布数が減っている。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
	頒布までの育苗に課題があるが、市の木としての認識をもってもらうための効果的な方法を検討することとし、市民への頒布という現行の手法は、近い将来において廃止とする。	
行革本部評価	総合評価	
	評価理由・意見	